2026年1月異業種交流会

開催日：2026年1月15日（木）　18:00～20:00
会　場：名古屋駅前　かぶらや総本店
参加者：三浦俊昭(39W)、石川正樹(39C)、清水堪蔵(49C)、鶴岡徹雄（44M)、
木村謙之(60W)、木村一哉(58L)、木村香代子(57W)、二宗光文(46M)
計8名

2026年最初の会にふさわしく、いつものメンバーに加え、久しぶりに三浦さん、石川さんという歴代の支部長が参加された。このお二人の参加により、参加者の卒業年代は昭和30年代、40年代、50年代、60年代と幅広く、世代を超えた交流の場となった。

一方で、これまで常連として参加されていた岡山県在住の池原さんや、本会の幹事役であった新澤さんの姿を最近見かけないことは寂しく感じられた。新澤さんは病気療養後、リハビリに専念されており、近頃は昼間の会に参加されたり、昨年は工業会のゴルフに参加されたりしていると聞いていたため、春になり暖かくなれば再び参加していただけるものと期待していた。
しかしながら、この会の翌日（16日)、新澤さんが病気のため亡くなられたとの連絡が入り、関係者一同、大きな衝撃を受けた。心よりご冥福をお祈り申し上げます。

話題提供の石川さん

東海連合支部長の清水さんからは、若い世代に工業会活動へ参加してもらうため、これまでとは異なる新たな取り組みについての報告があった。桐生の啓真寮を訪問しての勧誘活動や、若手を対象とした個別の会食・懇談の場の設定などが紹介され、すでに一定の効果が見られた事例も報告された。

説明する木村さん

石川さんからは、持参された書籍『豊臣兄弟』（秀吉にとって秀長とは何か）についての紹介があった。本書は、現在NHKの大河ドラマとして放映が開始された物語である。参加者の木村さんは、豊臣兄弟の出身地と同じ名古屋市中村区で生まれ育っており、大河ドラマで描かれている中村の様子について、実際とは少し異なる点もあるが、演出上の効果であろうといった興味深い話を聞くことができた。

説明を聞き入る参加者

さらに、豊臣家にゆかりのある豊国神社、常泉寺、豊臣ミュージアムなどについても丁寧な説明があり、今後もドラマの進行に合わせて、関連する歴史的エピソードが本会の話題として取り上げられていくものと思われる。

参加者は8名と比較的多く、会の各所で自然と話の輪が広がり、話題も多岐にわたった。戦国時代の歴史的な話題をはじめ、名古屋市内で連結バスの運行が始まった話、さらにはドライバー不足により北陸・東北などの雪国で除雪作業者の確保が課題となっている現状など、話は次々と展開していった。

（文責　46M　二宗）